



東京湾再生官民連携フォーラム

令和 2 年度事業報告

令和 3 年 3 月

東京湾再生官民連携フォーラム

目次

I. 事業期間	1
II. 事業項目	1
1. 中間評価の発表	1
2. 交流・連携事業の実施強化	1
3. 東京湾再生官民連携フォーラム 企画運営委員会の開催	1
4. 東京湾再生官民連携フォーラム 令和2年度通常総会の開催	1
5. 海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施	1
6. プロジェクトチームの活動 2020	2
7. オンライン東京湾大感謝祭 2020 の開催	2
8. 東京湾再生官民連携フォーラム 後援・協賛等の実施	2
9. 東京湾の日・10月1日 PR 活動	2
III. 事業実施経過と成果	2
1. 東京湾再生のための行動計画（第二期）における「第2回中間評価報告書」について	2
2. 交流・連携事業の実施	7
(1) 令和2年度 CSR-NPO未来交流会	7
(2) 施設連携 FACEBOOK「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」について	8
(3) 令和2年度 PT 長会議開催	9
(4) セブン-イレブン記念財団主催ウェブセミナーの参加	10
(5) PT 連携の推進／大森海苔のふるさと館に、フォーラム活動紹介パネル展示	11
3. 東京湾再生官民連携フォーラム企画運営委員会	12
4. 令和2年度通常総会の開催	13
5. 海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施	14
6. プロジェクトチームの活動状況	16
◇東京湾環境モニタリングの推進 PT (PT 長 古川 恵太)	16
◇生き物生息場づくり PT (PT 長 佐々木 淳)	16
◇指標活用 PT (PT 長 岡田 知也)	17
◇東京湾大感謝祭 PT (PT 長 木村 尚)	17
◇パブリックアクセス方策・検討 PT (PT 竹口 秀夫)	19

◇東京湾での海水浴復活の方策検討 PT (PT 長 関口 雄三)	19
◇江戸前ブランド育成 PT (PT 長 牧野 光琢)	20
◇東京湾の窓 P T (P T 長 芝原 達也)	21
7. 東京湾再生官民連携フォーラム 共催、後援等の実施	21
8. 東京湾の日・10月1日 PR 活動	21
9. 会員募集・広報活動	22
(1) 東京湾 NEWS-LETTER 配信	22
(2) 会員募集	26
(3) 東京湾/フォーラム活動の紹介・各地への情報発信	27
10. 令和2年度決算書	33

I. 事業期間

令和2年(2020)4月1日(水)～令和3年(2021)3月31日(水)

新型コロナウイルス対応により、フォーラム活動は、大きく制約を受けました。予定していた活動や会議の順延、人数制限による規模の縮小などを図り、コロナ対策を行いながら工夫して活動を実施しました。

II. 事業項目

主な活動項目は以下の通りです。

1. 中間評価の発表

フォーラム活動の報告・評価が、「東京湾再生のための行動計画(第二期)第2回中間評価報告書」に記載されました。

2. 交流・連携事業の実施強化

より多様な連携方法活動の実施を目指しました。

(1) 令和2年2月17日・「CSR-NPO未来交流会」の開催

Zoomを利用した開催を初めて行いました。

(2) 東京湾窓 PT のアウトリーチ活動・交流支援

東京湾の窓 PT スタンプラリーの代替として、Facebook を利用しての施設連携、個人参加の Facebook 「ぐるっと東京湾!自然と魅力のワクワク情報」の支援しています。

(3) PT 長会議の実施 (令和元年7月29日開催)

PT 長の情報交換の場として会議を実施し、「ウェブサイトや SNS 等、オンライン利用におけるルール」「新型コロナウイルス対応について」、「東京湾の日の導入について」などの意見交換、討議を実施しました。

(4) PT 連携の推進

「大森海苔のふるさと館」の協力によるフォーラム活動、PT 活動展示を実施しました。

(展示期間:令和2年11月17日～令和3年3月31日)。

(5) 企業とNGO等との交流会

例年参加している経団連自然保護協議会主催・経団連 自然保護基金 共催「シンポジウム・企業とNGO等との交流会」は、コロナ対応により中止となりました。

3. 東京湾再生官民連携フォーラム 企画運営委員会の開催

コロナ対応により企画運営委員会は、年2回開催となり、第1回目を約2週間にわたりメール等による会議を実施しました。第2回目は、対面とZoomを利用したウェブ会議を行いました。

4. 東京湾再生官民連携フォーラム 令和2年度通常総会の開催

令和2年10月17日、Zoom利用による総会の開催しました。令和元年度活動報告及び令和2年度活動計画、プロジェクトチームの活動についての報告等行われました。

5. 海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施

12月13日(日)、「葛西海浜公園 西なぎさ」で、認定NPO法人えどがわエコセンター・DEXTE-K 共催の「環境講演会&西なぎさ清掃活動」にフォーラムが参加しました。

6. プロジェクトチームの活動 2020

7. オンライン東京湾大感謝祭 2020 の開催

フォーラム共催の東京湾大感謝祭は、10月1日～25日間実施されました。例年、横浜赤レンガ倉庫の開催をオンラインに切り替えて実施されました。

8. 東京湾再生官民連携フォーラム 後援・協賛等の実施

DEXTE-K「西なぎさ発：東京里海エイドへの協力・参加

9. 東京湾の日・10月1日 PR 活動

Ⅲ. 事業実施経過と成果

1. 東京湾再生のための行動計画（第二期）における「第2回中間評価報告書」について

東京湾官民連携フォーラムの活動が中間評価報告において評価されました。令和2年度3月に、指標活用PTの成果により東京湾再生推進会議、東京湾再生官民連携フォーラム「東京湾再生のための行動計画（第二期）第2回中間評価（付録）指標に対する中間評価」報告書が作成されました。

○中間評価報告記載箇所 引用「3年間のフォーラム活動」

平成 29 年 3 月に行った東京湾再生のための行動計画（第二期）第 1 回中間評価においては、第二期計画開始の平成 25 年度以降平成 27 年度までの 3 年間の評価を実施し、施策については着実な実施がなされていると評価された一方、水質については一定の改善が見られるものの、目標の達成には至っていないと評価された。今回、第 1 回中間評価から 3 年を経て、各取組の着実な実施及び取組状況や目標達成状況の適切な把握ために、第 2 回中間評価を行う。本中間評価報告書では、東京湾再生官民連携フォーラムの設立以降、益々活発化している「東京湾再生のための行動計画（第二期）」に基づく各々の施策について、平成 25 年度から平成 30 年度までの 6 年間の実施状況とその評価・分析、今後の方針をとりまとめるとともに、上述した 28 項目の指標について評価を行った。

5. 官民連携の推進（報告書 p36～p39 引用）

「東京湾再生のための行動計画(第二期)」では、多様な関係者の参画による議論や行動の活発化を図るため、多様な主体で構成される「東京湾再生官民連携フォーラム」の設置検討が盛り込まれた。これを受け、平成 25 年 11 月に「東京湾再生官民連携フォーラム」（以下、フォーラムという。）が設置された。フォーラムの会員数は、立ち上げ時 2013 年の個人 218 名、93 団体から、着実に増加し、2019 年 3 月時点の会員数は、個人 307 名、122 団体となっている。併せて、その下には特定の問題について検討するための PT（プロジェクトチーム）が組織され、平成 30 年度末時点では 9 つの PT が組織されている。企業、NPO、研究者、官公庁といった多様な参加者から成るフォーラムは、設立以降、東京湾再生に係る課題や科学的知見等の共有、参加者を結末点とした新たなネットワークの構築、東京湾再生推進会議への政策提案等、多岐にわたる活動を進めている。以下に、フォーラムにおける主な取組をあげる。

（1）東京湾再生のための行動計画（第二期）の新たな指標に関する提案

フォーラム設立以降、「『東京湾再生のための行動計画』の指標検討 PT」（現在の指標活用 PT）を中心に、新たな評価指標の検討が進められた。行動計画（第一期）においては、指標が「底層の溶存酸素量（DO）」のみ

であったため評価できない各種事業やNPO活動等が多くあり、きめ細やかな評価指標の設定が必要であるという課題を踏まえ、より多くの多様な主体を東京湾再生に惹きつけるべく、わかりやすく多様な評価指標の策定を目標に検討が続けられ、とりまとめられた提案書は平成 26 年 11 月東京湾再生推進会議へ提出された。

提案された評価指標は、行動計画（第二期）の全体目標の要素に沿って、計 28 項目の多岐にわたるものであった。陸域における取組を評価するための「1人当たりの流入負荷量」、「下水処理施設の放流水質」、海域における取組を評価するための「生物生息場の面積・箇所数」、「生物共生型港湾構造物の延長」、東京湾の水質環境を評価するための「透明度」や「DO濃度（底層）」といった指標のみならず、「水遊びイベント・環境学習イベント等の参加者数」や「江戸前の地魚・魚介類の販売箇所数・イベント数」といった東京湾再生に係る様々な活動を適切に評価するための指標が盛り込まれている。東京湾再生推進会議では提案内容をもとに検討を進め、平成 27 年 5 月、提案された指標を全て採用する形で評価指標を策定した。また、指標の評価においては、これまで行政機関が関連データを所有しておらず把握が難しいデータの収集も必要となることから、登録制度の運用を含めたそれらのデータの収集、行政機関が新たに収集を検討するデータが提案の趣旨に合致しているかの適合性及び収集したデータの分析や解釈等について、フォーラムと連携することとした。このため、本中間評価においても、評価の進め方や各指標の評価等について、フォーラムの「指標活用 PT」の協力を得て進めたところである。指標の詳細及び各指標の評価については「IV 6. 指標の評価」及び「付録 指標に対する中間評価」で述べる。

（2）生き物生息場づくりに関する提案

フォーラムの「生き物生息場づくり PT」を中心に、東京湾における生き物の生息場づくりについて議論が重ねられた。「東京湾再生のための行動計画（第二期）」に示された理念と全体目標である『「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する東京湾の創出』を踏まえ、10年スケールで官民が連携して取組むべき生息場づくりの基本的な考え方と進め方についてまとめられ、本提案書は平成 28 年 2 月に東京湾再生推進会議へ提出された。本提案では、「生き物生息場づくりの基本的な考え方と進め方についての提案」と「東京湾北部沿岸におけるマコガレイ産卵場の底質改善の提案について」の二部構成となっている。前段では、江戸前の生き物を育んできた東京湾の地史的歴史性を鑑み、長期的な視点では陸から海への緩やかな景観の連続性を取り戻すことを念頭として、生き物生息場づくりを進める上で必要な関係者の合意形成、モニタリング体制の重要性、プロジェクトの結果公表等について基本的な考え方が示されている。後段では、具体的な生き

物生息場づくりの事例として、東京湾北部沿岸におけるマコガレイの生息場・産卵場づくりが提案されている。主に東京湾の北部沿岸において産卵するマコガレイは、産卵に際して砂質の浅場を必要とする。しかしながら、泥質（ヘドロ）堆積物で覆われている東京湾の北部においては、マコガレイの孵化率が低下し、ひいては資源量の減少につながっていると考えられていることから、覆砂、盛土といった具体的な浅場造成の手段を挙げて生き物生息場の創出の提案がなされている。本提案に関して、生き物生息場づくり PT と国土交通省、水産庁等が連携して検討を進めている。産卵場造成に向けて、港湾工事から発生する土砂を活用した茜浜の試験施工について調整を進める。

（3）東京湾パブリック・アクセスに関する提案

人々が、海へ繋がるアクセスルートや施設を手軽に認識し、活用することが東京湾の再生に資するとして、東京湾の再生に向けたパブリック・アクセス方策に関する政策提案が、平成 29 年 3 月に提出された。本提案では、「人々が、手軽に海に接する既存のアクセスを広く認識し、活用が進むこと」のために、既存の施設やアクセスルートをよく知ってもらう政策・施設やアクセスルートの活用を促す施策として、情報提供機能の充実（提供する情報の内容や情報提供の方法）について示されている。本提案に関して、各自治体では、海との接

点である視点場やアクセスルート等の情報をウェブサイトやマップ、ガイドブック等に掲載するなどの取組を行っている。

(4) 東京湾奥での海水浴復活に関する提案

東京湾奥での海水浴復活は、「東京湾流域に住む人々の身近な自然体験の場となる」「都会に住む子供たちにとって、遊びと学びの場となる」意義があるとして、東京湾奥の多くの場所での海水浴復活のための当面の第一歩として、平成 30 年 11 月に政策提案が提出された。本提案では、「浜辺を管理する自治体は、顔つけ禁止などの条件下で、期間限定的な海水浴を地元市民と協働して実施すること」「現在海水浴が試行されている浜辺については、本格的な海水浴の実施に移行させること」「既に海水浴場として開設されている浜辺等については、今後も引き続き海水浴が実施できるよう努力すること」「海水浴場の水質については、より合理的な判定ができるような基準の改善や予測手法の開発に努めること」が示されている。

本提案に関して、葛西海浜公園では平成 24 年から海水浴体験が行われており、平成 30 年には 42 日間実施されている。また、お台場海浜公園では平成 25 年から行われており、平成 30 年には 9 日間実施された。今後も継続して実施していく予定である。

(5) 東京湾大感謝祭

東京湾再生推進会議は後援に加わり、東京湾沿岸に住む市民や企業、団体と国や自治体が、ともに海の再生を考え、行動するきっかけを提供する場として、平成 25 年 11 月に東京湾大感謝祭がお台場で初めて開催された。平成 26 年からは毎年 10 月に横浜赤レンガ倉庫周辺で開催されている。

東京湾再生推進会議の構成機関や、NPO、漁業関係者、建設会社、江戸前料理店、つり関連団体など多種多様な関係団体が参加し、東京湾の再生に関する各種展示のほか、環境省主催の WONDER ACTION CAFÉ、海上保安庁による海の救助訓練、関東地方整備局による清掃兼油回収船の展示、ヨット等の乗船体験、親子ハゼ釣り教室、SUP レースなど海に関連した多数のイベントが実施された。また、年々、来場者数も増加しており、平成 30 年には 105,000 人の来場があり、多くの人が東京湾を身近に感じることができイベントとなっている。今後も、来場者や参加者が東京湾の再生についてさらに考え、行動していくよう、官民が連携して活動の輪を広げていくことが重要である。

(6) 東京湾環境一斉調査とワークショップ

東京湾再生推進会議では、フォーラムの設立以降、「東京湾環境モニタリングの推進 PT」と協働して、東京湾環境一斉調査を実施すると共に、一斉調査の結果のとりまとめ方等について調査参加者と意見を交わすワークショップを開催している。また、ワークショップの成果として、「東京湾環境マップ」を毎年発行している。これらの取組により、これまで行政機関や研究機関が中心であったモニタリングは、東京湾環境一斉調査への民間企業・市民団体の参加機関数が 81 機関（平成 28 年度）から 102 機関（平成 30 年度）に増加するなど、近年着実に市民へと浸透しつつある。市民団体等、東京湾の環境再生に取り組む組織（民）と連携してモニタリングを推進していくことは、行政機関だけではカバーできない広範囲において貴重なデータの蓄積をもたらすとともに、行政機関単独での実施に比べ、より多様な主体の興味・関心を東京湾へ向けることが可能となることから、今後も引き続き、官と民とが連携したモニタリングの実施が重要である。

6. 指標の評価

「IV 5. 官民連携の推進」で述べたとおり、東京湾再生官民連携フォーラムからの提案をもとに、「東京湾再生のための行動計画（第二期）」における 28 項目の評価指標を策定している(28 項目の評価指標については、「付録 指標に対する中間評価の指標一覧」を参照)。各指標について評価するにあたり、陸域、海域及びモ

ニタリングの各分科会において関連データの収集を行った。今回も、前回の中間評価同様に、行政機関がデータを保有していない一部の指標については、「指標活用 PT」、「江戸前ブランド推進 PT」からデータの収集・評価の協力を得た。これらの指標は以下のとおりである。※**指標一覧参照**

「指標活用 PT」「江戸前ブランド推進 PT」により評価が行われた指標

- ・ A-5 海のごみの量（市民・NPO 等による実施分）
- ・ A-6 水遊び空間における水難事故防止のための監視・パトロール活動回数
- ・ A-8 水遊びイベント・環境学習、イベント等の参加者数
- ・ B-2 藻場の箇所数
- ・ B-7 江戸前の地魚・魚介類の販売箇所数イベント数
- ・ D-4 多様な主体による環境保全・再生の取組等の情報発信
- ・ D-5 科学論文・報告書の数
- ・ D-7 東京湾の環境に対して取組を行っている企業・団体等の数

一部指標については、指標を直接説明しうるデータが収集できなかったことから、代替指標を設定したうえでデータを収集している。前回、該当するデータ収集ができなかった C-3 水辺のイベントの開催回数や「C-4 水上バス、屋形船、レストラン船の利用者数」については、「指標活用 PT」での議論を踏まえ、データの収集及び評価を実施することができた。「C-2 海が見える視点場」については、引き続き該当するデータの検討が必要であると判断し、今回も評価に至らなかった。データ収集後、概ね平成 25 年度から平成 30 年度までの 6 年間について、指標ごとに設定された目標を達成状況について分析・評価を行った。指標の分析・評価にあたっては、東京湾再生官民連携フォーラムの下の「指標活用 PT」における議論をもとに行っている。各指標の詳細な分析・評価は「付録 指標に対する中間評価」に示すとおりである。今回、評価されなかった「C-2 海が見える視点場」を除く 27 項目の指標をみると、着実に短期目標が達成されたと評価される指標は、11 項目であり、前回の中間評価時の 6 項目から大幅に増加していた。着実に達成している指標がある一方で、短期目標を達成していないと評価された指標は 12 項目あった。12 項目の指標の中には、減少傾向または増加傾向を示すことが目標達成の条件であったものの、現状横ばいと評価され、短期的に状況が変化していない項目（B-3、B-5 など）が含まれる。また、長期的には改善傾向を示しているものの、短期（過去 5 年）において、顕著な改善傾向を示さなかった指標も含まれる（A-4、A-7 など）。

着実に短期目標が達成されたと評価される指標（11 項目）

A-3、A-5、A-6、A-8、B-1、B-2、C-3、D-1、D-3、D-4、D-7

一部又は概ね達成されたと評価される指標（4 項目）

A-9、C-4、D-2、D-6

短期目標を達成していないと評価された指標（12 項目）

A-1、A-2、A-4、A-7、B-3、B-4、B-5、B-6、B-7、B-8、C-1、D-5

現状把握及び目標達成状況の評価には至らなかった指標（1 項目）

C-2

今回の評価では、前回の中間評価時に課題として挙げられていた「データ収集方法をはじめとする指標の評価体制」について、「指標活用 PT」のイニシアチブのもと評価できていなかった指標のデータの収集、分析及び評価を行うことができた。特に指標のデータの設定及びデータの評価においては、「指標活用 PT」の知見が大いに活用された。「東京湾再生のための行動計画（第二期）」の評価指標は多岐にわたっており、上述のように短期的には状況が変化していない場合でも、長期的なデータの分析を行った結果、改善傾向を示す事例もあ

った。データの収集条件は、過剰又は過少な評価に繋がりがねないため、今後も引き続き「指標活用 PT」と連携し、指標の評価方法について検討したい。

V 東京湾再生のための取組に関する外部意見

「東京湾再生のための行動計画（第二期）」においては、東京湾再生官民連携フォーラムが設立され、行動計画の実施において連携を図っており、今回の中間評価書の作成にあたっては前回の中間評価と同様、東京湾再生官民連携フォーラムへの意見照会を行っている。今回、東京湾再生官民連携フォーラムからは、東京湾再生のための取組に対し、海藻等のバイオマスエネルギー活用に資する東京湾に適した海藻類等の増養殖技術の開発に関する意見や、民間団体において対応が困難である場所における生物調査の必要性等について意見を頂いた。

VI まとめ（抜粋）

官民連携の推進については、東京湾再生官民連携フォーラムの設立以降、行政や大学・研究機関、水産関係、企業、レジャー、NPO等の関係者が東京湾再生の取組に連携・協力してきた。フォーラムの会員は年々増加しており、また、フォーラムに設置されている9つのプロジェクトチームは、東京湾再生を目指す人々の交流の場としても機能している。フォーラムは、東京湾大感謝祭や政策提言を通して官民における多数の関係者及び市民の参画を促進する中核的な役割を果たしており、行動計画の実施においてその貢献は大きい。東京湾再生には官民が連携して取組むことが重要かつ効果的である。

行動計画（第二期）より採用している28項目の評価指標については、目標を着実に達成している指標がある一方で、約5割の指標においては、平成25年度から平成30年度の6年間では達成していなかった。加えて、現在の東京湾再生推進会議の体制下においてはデータが収集できず、評価に至らなかった指標もあった。今後、データ収集を含めた評価体制の構築を含め、東京湾再生官民連携フォーラムや市民団体、研究機関等、多様な主体と連携・協働しながら本行動計画の評価を実施する必要がある。「東京湾再生のための行動計画（第二期）」が策定され6年が経過した現在、多くの施策が着実に実施されており、指標の評価において示されたとおり、長期的には一定の改善が見られている。しかし、東京湾全体の水質改善については目標の達成に至っておらず、依然として行動計画（第二期）の全体目標の達成には厳しい状況にあるといえる。他方、各分科会での施策の推進に加え、東京湾再生官民連携フォーラムの活動により、課題や科学的知見の共有、参加者を結束点とした新たなネットワークの構築、東京湾大感謝祭の開催による多くの市民の参加など第二期の行動計画の目標に向けた取組におけるフォーラムの貢献は高く評価される。今後は、計画の最終年度となる令和4年度の期末評価に向けて、今回の中間評価で明らかになった課題に取組んでいく。東京湾の再生は長期的な展望が不可欠であることを念頭に、今後も各主体が連携し、着実な取組を進めていく必要がある。

2. 交流・連携事業の実施

(1) 令和2年度 CSR-NPO未来交流会

<開催概要>

- ・開催: 令和3年3月3日(水) Zoom ライブ配信 参加交流
- ・主催: 東京湾再生官民連携フォーラム
- ・協力: 経団連自然保護協議会、
一般財団法人セブン-イレブン記念財団
- ・交流テーマ: コロナ禍の NPO と企業の組織連携 生活スタイル様式の変化、行動変容から環境活動のヒントを探る
- ・参加団体: 29 団体、55 名

内 容: プログラム

コロナ感染を防止しながら個人の生活行動、組織・団体等の行動は、さらに新しい工夫が必要となっています。この現実を踏まえて、今回の交流会は、新しい工夫を行うための情報・意見交換をはかり、環境活動に取り組む知恵の創出と交流を図りました。交流会は講演を核として、Zoom の利用により実施しました。

I 部 協創・連携による社会イノベーション 13:10~14:25

	主催者挨拶	東京湾再生官民連携フォーラム 議長 来生 新
講演-1	海洋環境にかかわる関係団体等との交流について~国土交通省港湾局の事例から~	国土交通省 港湾局 海洋・環境課 港湾環境政策室 室長 白井 正興 氏
講演-2	DX・AI とは何かを知ろう -新しい活動方法のヒントを探る-	先端技術アナリスト、DX・AI 教育アドバイザー、 成蹊大学理工学部兼任講師、日本能率協会マネジメントセンター『ゼロからわかる AI の基礎』コース 講師 浅岡 伴夫 氏
講演-3	竹芝地区における官民連携による エリアマネジメント	一般社団法人 竹芝エリアマネジメント 事務局長 田中 敦典 氏
事例-1	Facebook によるネットワーク化・ コミュニケーションで見えてきた 次のステップ	東京湾再生官民連携フォーラム・東京湾窓 PT 特定非営利活動法人海苔のふるさと会 事務局長 小山 文大 氏
事例-2	双方向オンラインワークショップによる 環境学習活動 -事例紹介と試行体験-	ふなばし三番瀬環境学習館 学芸・普及チーム 科学コミュニケーター 小澤 鷹弥 氏

(2) 施設連携 Facebook「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」について

Facebook 参加サイト <https://www.facebook.com/groups/tokyowaninfo> の紹介



主催：東京湾の窓 プロジェクトチーム

後援協力：東京湾再生官民連フォーラム（助成：一般財団法人みなと総合研究財団）

公開グループメンバー：263人

<Facebook ページの活動主旨>

東京湾沿岸の様々な学習施設やスタッフ、関係者から東京湾の自然や歴史などの魅力情報が集まる。ここで紹介されるいろいろな情報が共有されることで、東京湾の魅力が多くの人から伝わり、東京湾好きな人が増えることを願っている。

運営は、東京湾官民連携フォーラム内の東京湾の窓プロジェクトチームが行っている。なお、「未来のみなとづくり助成（港・海辺活動）」を受けている。記事の最後には施設名、テーマにハッシュタグ#をつける。またどんなトピックかも付けられるので後から特定のテーマの投稿だけを選ぶことができる。

<グループへの参加条件&投稿>

東京湾の生き物、自然、風景、歴史が大好き！という方はもちろん、東京湾ってどんなところだろう？どんな施設があるんだろう？どんなイベントがあるんだろう？など興味がある方も大歓迎です。投稿は、東京湾についての情報に限る。誰でもグループのメンバーと投稿を見ることができる。

<禁止事項>

営利目的、政治や宗教の目的での投稿は固くお断りする。また、違法、道徳的不適切な内容、誹謗中傷や自説表明などグループの目的にそぐわない投稿は、管理者の判断によって予告なく削除する。東京湾の魅力共有するグループであること。

(3) 令和2年度 PT 長会議開催

1. 開催日：令和2年7月29日（水）
2. 場 所：みなと総合研究財団 会議室
3. 議 題：

1. コロナ対応生活（時代）に向けた政策提案に関する検討

会議は様々な視点から討議が行われました。以下に代表的な意見を紹介します。

今後の政策提案に向けてウェブ等を活用して、内容を分かり易く幅広く、市民の方々に知っていただくのも重要ですが、政策提案の役割となる行政への提案が基本と考えます。成果をわかりやすくして伝えるという点では、発表に苦労しそうです。

行政への提案は、従来は行政的な言葉で済みますが、行政を取り巻く様々なインターフェイスがあり、市民のほかにも政治家などもあるところとなります。政治の方々に訴えるのなら、平易でキャッチーな言葉が必要と思う。また、戦略性が必要となります。

PT が政策提案をするのだが、PT にのみ負担をかけず、まとまりそうになったら政策提案をやさしくする別の集団が必要です。

2. IT 活用型のイベントや組織に必要なコミュニケーションの作法・ルールの作成について

意図せぬ炎上など避けるため、東京湾大感謝祭のオンライン化にも反映できる一定の共通ルールを作成するための討議が行われました。これからさらにウェブの活用が図られますので、このため、著作権などからネットコミュニケーションのルールまで幅広く討議を実施しました。

この議論を踏まえて、企画運営委員会への提案が行われ審議され、ルールが承認されました。

（HPに掲載しています）

3. 令和2年度 フォーラム事業について

東京湾カードの活用・管理、デジタル化について

会議では、今までの知見から参考となる事例等が紹介されました。参加者のオンライン登録、データの蓄積や「デジタルバッジ」システムの配布などが紹介されました。また、管理面として、カードなど個人情報の紐づけのコストやセキュリティなどについて意見交換が行われました。

4. ベルモントフォーラム国際共同研究の紹介（説明：古川 PT 長）

古川 PT 長から共同研究への協力がありました。アメリカが中心となり、共同研究が始まり、フィリピン、インド、ノルウェー、日本です。他の国は、予算執行が止まっている現状の説明が行われました。またこの研究の中で、「肝となっている、草の根の声を政策まで届ける」主旨にあわせて、ツールとなる「COAST card（ビジュアルに優れたシステム）を利用し、SNA の手法で草の根の力を分析する」方法が紹介されました。この研究の主旨に沿い、様々なタイミングでフォーラム会員の方にアンケートやできればワークショップなどを開いて反応を得ながら進めていきたいと思う旨の協力がありました。

5. 東京湾再生活動について 「東京湾再生のコンセプトペーパー」（説明：古川 PT 長）の紹介

行政が行政で決定しているいろいろな施策を進めて東京湾を再生するところから脱却するタイミングを見つけたい、そのきっかけとなる動きをするべきではないかというのが主旨となっています。再生のために「変わる化」、「見えるか」、「触れるか化」という三つの軸があり、触れる化は、見えるかは訴求力のあるプレゼンの実施、コロナ対応のこともあり直接触れない、会えないなどが起きているが、仮にオンラインであっても、どこかに触れるか、話すとかに結び付けるアクションにしていきたい。なにかのきっかけになれば

ということで紹介します。

(4) セブン-イレブン記念財団主催ウェブセミナーの参加

毎年、社会の課題と助成制度の説明の二部構成で実施されている一般財団法人セブン-イレブン記念財団セミナーに参加しました。コロナ禍がもたらす社会変容は、「できることをどのような方法でトライしていくのか」に気づかされ、コロナは、禍と捉えるだけではなく、コロナ禍、だからこそポジティブに考え、前進するセミナー内容は、今後のフォーラム活動に参考となりました。また、多数の参加者のZoom会議進行は、Zoomの使い方を含めて、フォーラム活動推進に参考となりました。セミナー概要はつぎの通りです。

日時：2020年9月13日（日）10：00～13：00

9:30 Zoom ミーティング開場

参加費：無料

《第一部》

基調講演①「オンラインでの参加型の学びの場づくり」

公益社団法人 日本環境教育フォーラム

理事長 川島 直 氏

基調講演②「感染症や自然災害などを織り込んだ組織基盤拡充のポイント」IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 川北 秀人 氏

《第二部》

※助成制度説明会

公益財団法人 コメリ緑育成財団「コメリ緑資金」、TOTO 株式会社「TOTO 水環境基金」、

独立行政法人 環境再生保全機構「地球環境基金」一般財団法人 セブン-イレブン記念財団「環境市民活動助成」

※制度説明のまとめ・助成金申請のポイント：

IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 川北 秀人 氏

The poster is titled 'Webセミナー コロナ禍 時代を生き抜くヒント ~助成金合同セミナー 同時開催~'. It features a background image of a green field under a blue sky. The text on the poster includes: '2020年新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全国の環境保全活動に大きな影響が出ています。新たな日常に対応するためには残った何か必要が手一揃に考えましょう。', 'Zoom生配信 日時：2020年9月13日（日）10～13時', '参加費無料 画面のお申込みURLまたはQRコードよりお申込みください。', '基調講演 第1段 公益社団法人 日本環境教育フォーラム 理事長 川島 直 氏 『オンラインでの参加型の学びの場づくり』', '基調講演 第2段 IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者 川北 秀人 氏 『感染症や自然災害などを織り込んだ組織基盤拡充のポイント』', '助成金制度説明会 ~助成金申請のポイントが分かります~', and a list of sponsors: '公益財団法人 コメリ緑育成財団「コメリ緑資金」、TOTO株式会社「TOTO水環境基金」、独立行政法人 環境再生保全機構「地球環境基金」、一般財団法人 セブン-イレブン記念財団「環境市民活動助成」'. At the bottom, it lists the main sponsor 'セブン-イレブン記念財団' and other sponsors 'TOTO' and 'IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所]'.

(5) PT 連携の推進／大森海苔のふるさと館に、フォーラム活動紹介パネル展示

大森海苔のふるさと館協力のもと、フォーラムは、東京湾を楽しむ-9つの東京湾における PT 活動紹介展示を実施しました。実施期間は、令和2年11月17日～令和3年3月31日です。



展示パネルでは PT 活動の特徴を紹介し、フォーラム活動紹介案内パンフレットや「東京湾一斉調査結果のマップ」、(東京湾環境マップ)9つの PT 活動を紹介するパネル展示やフォーラム会員の募集パネル等を展示を行いました。



東京湾の日のポスターの展示



3. 東京湾再生官民連携フォーラム企画運営委員会

3-1 令和2年度 第1回 企画運営委員会

1. 開催日時：令和2年9月10日（木） メールによるネット会議

2. 議事次第

「審議議案」

- (1) 令和元年度事業報告（案）、決算（案）及び監査結果について
- (2) 東京湾再生官民連携フォーラムの諸活動における通信媒体を用いる時のルールとマナーの制定について

「審議結果」

提案された審議事項は承認された。承認と同時に、ルールとマナーの制定については、確定したフォーラムHPに掲載し、同時に事務局は「検討部会」を設置し、今後も検討を重ねていく。

「報告事項」

- (1) P T 活動報告
- (2) 東京湾再生官民連携フォーラム令和2年度総会について
フォーラム第8回通常総会（Zoomによるネット会議予定）
- (3) P T 長会議報告
- (4) 東京湾の日活動（10月1日制定）PRについて

令和2年第1回企画運営委員会は、新型コロナウイルスへの対応により、通常参集しての委員会開催を変更して、インターネットを通じた開催を実施しました。なるべく意見反映に努め、意見照会を行うことにより、議論を深めました。

■会議の進め方：メール審議について

委員のみなさまには、議案資料を読んでいただき、ご意見（意見照会シート記載）をいただき、事務局で意見のとりまとめをおこないました。次にご意見を掲載した「意見照会シートのまとめ」、「議決用の賛否シート」を委員のみなさまへ配信しました。「審議結果をご返信いただき事務局でとりまとめ、その結果を委員の皆様にご報告しました。」

■会議日程

審議～結果まで

9月10日 事務局からの配信

9月14日 各委員からの意見照会シートの返送（16：00まで）

9月16日 事務局照会シートのとりまとめ

9月17日 事務局からの配信

- ・意見照会のとりまとめ結果
- ・審議案の検討修正（案）の提示（意見照会の結果を受けての修正が必要な場合など）
- ・審議可否シートの配布

9月17日～18日（午前中まで） 各委員からの審議結果のご返信

9月18日 事務局からの審議結果のご連絡 会議の終了

3-2 令和2年度 第2回 企画運営委員会

1. 開催日時 令和3年3月26日(金) 10:00~12:00
2. 開催場所 Zoom 利用と対面形式による委員会開催
対面会議・みなと総研会議室(バックアップ・事務局 Zoom 運営)
3. 議事次第

「審議事項」

- (1) フォーラム令和3年度事業計画(案)、予算(案)について
- (2) 令和3年度フォーラム総会開催について

「審議結果」

提案された(1)、(2)審議事項は承認されました。

「報告事項」

- (4) フォーラム令和2年度事業報告(案)について
- (5) 中間評価について(フォーラム事業報告説明に含む)
- (6) 東京湾大感謝祭2021 開催宣言文 紹介
- (7) 令和2年度PT活動報告、令和3年度PT活動計画(各PT長)
- (8) CSR-NPO未来交流会2021について
- (9) 読み聞かせ動画「みんなの東京湾みんなで再生-10月1日・東京湾の日」について
- (10) その他

4. 令和2年度通常総会の開催

開催日時: 令和2年10月17日(土) 10:00~11:30

開催会場: Zoomによる会員参加リモート総会 運営会場事務局: みなと総研 3F 会議室
(横浜市開港記念会館の利用を変更)

出席者: 会員数450(団体・個人)に対し出席21(団体・個人)、委任状28(団体・個人)

議事次第

1. 開会
2. 議長挨拶
東京湾再生官民連携フォーラム議長 來生 新
3. 議事
 - (1) 総会議長選出
 - (2) 議題の採択
 - (3) 議事録署名人の選出
 - (4) 報告議題
 - (4-1) 令和元年度活動報告及び令和2年度活動計画
 - ① 令和元年度事業報告及び決算報告について
 - ② 令和2年度事業計画及び予算について
 - (4-2) プロジェクトチームの活動報告について
 - (5) その他
 - (5-1) 東京湾再生官民連携フォーラムの諸活動における通信媒体を用いるときのルールとマナーの制定



総会運営会場 議長

について

(5)-2 「東京湾の日は10月1日活動」について

(5)-3 クリーンアップ 東京湾 海ごみ、プラゴミ・ストップ活動

4. 閉会

総会 議長挨拶

「例年、東京湾大感謝祭の初日に face to face で総会を行ってきたが、今回は新型コロナの蔓延となり、総会も Zoom による会員参加リモート総会でやらざるを得なくなった。色々な意味で社会全体が変わっていくと理解している。フォーラムには、face to face で実際に人と人が交わりと言う要素は欠くことが出来ない。フォーラムの在り方自体もあるが、新しい交流方法等を模索していかなければいけないと考えている。本日の総会宜しく願います。」

<総会結果>

総会は、初めて Zoom 利用による開催となりましたが、議題の採択は承認され、滞りなく総会運営が行われました。事務局からの報告、PT 長からの報告が順次行われ、指標活用 PT 長、モニタリン PT 長からは、同時に開催している東京湾大感謝祭サイトにある動画を交えて、活動報告が行われました。

また、事務局から東京湾の日を 10/1 とする制定説明や、クリーンアップ活動の現状説明が実施されました。

5. 海ごみ・プラスチックゴミクリーンアップ活動の実施

<活動目標>

○ 海ごみ・プラスチックごみ クリーンアップ活動の実施 既存活動の輪をつくります。

①海ごみ・プラスチックごみ クリーンアップ活動の拠点作り

②会員を含めて既存活動団体との連携・連動、企業の C S R 活動などとの連携活動の実施

③海ごみ・プラスチックごみの減量を通じて、湾の背後に住む私たちのライフスタイルを考え直し東京湾の恵みを考える。

○ クリーンアップ活動を実施している会員の支援を行う。

<清掃活動への参加>

○海ゴミ、プラごみ クリーンアップ活動の参加

～みんなで守り、楽しみ、引き継ぐ葛西の海・里海～ 環境講演会&西なぎさ清掃活動

開催日時：12月13日（日）

開催場所：葛西海浜公園 西なぎ

認定 NPO 法人えどがわエコセンター・DEXTE-K 共催による葛西海浜公園 西なぎさにおいて開催された「環境講演会&西なぎさ清掃活動」に参加した。

海洋環境専門家 木村さんも清掃活動に参加

▼環境講演会&西なぎさ清掃活動 回収の様子



▲回収プラごみ



▲回収ごみを前に、集合写真



時間を忘れて回収活動に夢中になりたくなるほど、小さくなったプラスチックごみが簡単に見つかります。回収には多くの人手と時間が必要です。清掃活動終了後は葛西臨海公園にある「ホテルシーサイド江戸川」に場所を移して、海洋環境専門家木村さんによる「みんなで守り、楽しみ、引き継ぐ葛西の海・里海」と題した環境講演が行われました。



◀木村氏による環境講演会

6. プロジェクトチームの活動状況

各 PT では、コロナ対応により計画を変更しながら、継続的に活動を行っています。

◇東京湾環境モニタリングの推進 PT (PT 長 古川 恵太)

活動内容

(1) 再生推進会議と協働し、「東京湾における流域および海域の環境一斉調査」を実施・とりまとめを行う

- 知る：東京湾の現状
- 広める：東京湾環境マップ「東京湾に出かけよう！」
- 行動する：カニ生息一斉調査、江戸前ハゼ棲み処調査、江戸前アサリ「わくわく」調査の実施

(2) 東京湾環境一斉調査及び環境マップの作成活動

○マップ内容

1. 未来の東京湾と人のつながりの再構築にむけて 2 つの政策提案
2. 運河域でのつながり
3. 干潟域でのつながり
4. 河川でのつながり
5. 東京湾の窓施設とスタンプラリー

○今年の東京湾環境一斉調査（登録数）

- 水質調査： 8月5日、125機関
- 生物調査： 7月－9月
- 環境啓発活動： 7月－9月

○東京湾環境一斉調査「実施状況などの公開」

東京湾環境一斉調査のページ

https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/Monitoring/General_survey/index.htm



東京湾のアクション（大感謝祭動画コーナー）

◇生き物生息場づくり PT (PT 長 佐々木 淳)

活動内容

- 令和2年11月26日 PT 幹事会 開催
再生目標生物 WG 報告，神奈川県水産技術部話題提供，マコガレイ産卵場の底質改善
フォローアップ調査計画，東京湾外を含む有用土砂資源の受入に伴う課題整理の実施
- 令和元年12月24日マコガレイ産卵場底質改善域の産卵状況 調査を実施
- 令和2年2月21日マコガレイ産卵場の底質改善の成果に関する記者発表の実施
詳細は下記サイト参照ください。
国土交通省千葉港湾事務所 <https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/chiba/press/pdf/press/200221.pdf>
フォーラム http://tbsaisei.com/news/2020/news_2020_2.html
- 2020年5月～6月 茜浜沖土砂投入
- 2020年度東京湾大感謝祭における展示用 PT 動画作成
タイトル：政策提案「マコガレイ産卵場の底質改善」の社会実装
- 生き物 PT 幹事会の開催
みなと総研会議室 11月20日（金）18：30-20：00（Zoom オンラインの併用）

- ・底質改善場所の産卵状況調査の実施等検討 12月24日実施

◇指標活用 PT (PT長 岡田 知也)

活動内容

- ・東京湾再生のための行動計画(第二期)第2回中間評価(付録)報告書の作成
東京湾再生推進会議と協働して、付録書を作成(116ページ)5年間の各指標の推移を詳細に説明しています。東京湾再生推進会議のHPで公開しています。
https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/RenaissanceProject/AP2_Evaluation2.pdf
- ・調査結果を示すポスターに加えて、4つの動画の作成を行い、オンライン2020東京湾大感謝祭公開しています。
- ・2か月に1度の頻度でWGを開催、メール調整は多数実施。
透明度、COD 糞便性汚染、赤潮発生回数、DO濃度、青潮等の整理方法について専門家の視点から議論を行ってきました。



オンライン2020東京湾大感謝祭公開動画

◇東京湾大感謝祭 PT (PT長 木村 尚)

活動内容

東京湾再生活動のためのPR活動の実施。実施にあたり毎月1回の実行委員会をZoomを利用して開催し、従来通りの横浜赤レンガ倉庫広場を中心とするリアルなイベントか、またはオンラインでの開催等、検討を行ってきました。結果、「オンライン東京湾大感謝祭2020」の開催に至りました。

<オンライン東京湾大感謝祭2020開催概要>

東京湾大感謝祭は、市民や企業、団体と国や自治体とともに、海の再生やライフスタイルシフトのあり方を考え、行動するきっかけを提供する場として、2013年秋に初開催されました。横浜赤レンガ倉庫とその周辺海上を舞台に開催され、多くの市民や企業、団体、国、自治体の関係者が参加しています。

オンライン東京湾大感謝祭2020は、周辺住民3000万人との世界共通の持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向け「海にいいこと、やさしいこと、はじめよう!」をテーマに、皆様のSDGs活動や環境に配慮した製品・サービス、市民や学校活動などの紹介・体験の場として10月1日より特設サイトとして、オンラインで開催しました。

- ・催事名: オンライン東京湾大感謝祭2020

- ・会期・会場：オンライン会場*連携企画はオフライン開催
- ・会期：2020年10月1日（木）～25日（日）
 - ※10月1日（木）よりコンテンツ配信開始
 - ※10月2日（金）～4日（日）フローティングヨットショー*連携企画
 - ※10月11日（日）ちょいなげ房総族*連携企画（中止）
 - ※10月17日（土）、18日（日）横浜大さん橋からのライブ配信
 - ※10月19日以降は一部アーカイブを配信
 - ※10月24日（土）、25日（日）帆船みらいへ・体験航海&東京湾環境大調査*連携企画
- ・主催：東京湾大感謝祭実行委員会
- ・共催：国土交通省関東地方整備局、横浜市、東京湾再生官民連携フォーラム、（一財）みなと総合研究財団、東京湾の環境をよくするために行動する会、横浜港ポート天国推進連絡協議会
- ・特別協力：環境省 特別後援：一般社団法人セイラーズフォーザシー日本支局
- ・メディアパートナー：FMヨコハマ

<開催結果>

来場者数：ユーザー数：13,603名/25日間、ページビュー数：54,024PV/25日間

- ・オンライン構成：オンライントークショー、オンラインワークショップ、動画配信、オンライン展示など
- ・トークショー：全10プログラムを実施
 - ※10月17日（土）出演者：養老孟司氏、国土交通省港湾局長高田昌行氏、横浜市立幸ヶ谷小学校児童、NPO法人BlueEarthProjectメンバー、榎太一氏、秋丸美帆氏
 - 10月18日（日）出演者：セブン&アイHLDGS 鈴木彩子氏、海洋研究開発機構千葉早苗氏、ヤマハ発動機関連友里恵氏、BlueEarthProject 高校部生徒、藤森涼子氏、秋丸美帆氏
- ・オンライン展示：全37展示（33社・団体）
- ・動画コーナー：全49掲載（27社・団体）
- ・取材：24社（テレビ1社、ラジオ3社、新聞4社、雑誌3社、ネット）



オンライン東京湾大感謝祭 2020 特設ウェブサイト



10/17 横浜 大さん橋ホールでのライブ配信



◇パブリックアクセス方策・検討 PT (PT 竹口 秀夫)

活動内容

- ・令和元年度に実施した政策提案「東京湾パブリック・アクセス方策 政策提案“東京湾へGO”」のフォローアップを計画しています。今後、課題が発生した時に対応できるよう予定しています。
- ・他の PT 、 PT メンバーやフォーラム会員から提案があれば具体的に対応します。

◇東京湾での海水浴復活の方策検討 PT (PT 長 関口 雄三)

活動内容

本年は、新型コロナウイルスの流行を受けて、近隣の海水浴場が閉鎖される中、葛西海浜公園の海水浴や里海まつりをどうするか問題となり、東京都港湾局、東京都公園協会と当会が何度も協議し、コロナ対策を十分に行った上で、里海まつり(海水浴を含む)を実施しました。このため、7月19日に安全祈願を行い、里海まつりを行ったが、新型コロナウイルスの再拡大に伴い東京都からイベント中止要請があり、7月末で里海まつりを中止せざるを得なくなりました。

しかしながら、葛西海浜公園自体は閉鎖されないことから、水遊びに訪れる人々の安全管理の観点でライフセーバーによる「水遊び監視」が続けられるよう協議し、これを実行することとなりました。

その結果、夏休み期間中、43 日間に亘る「里海まつり」と「水遊び」が無事に終了し、約 7 万人の人々が訪れました。

- ・葛西海浜公園 水遊びとして位置づけて実施。(監視と海浜・海底清掃)



▲期間中の海底清掃・危険物除去活動里海まつり（7/26 実施、以後中止）

◇江戸前ブランド育成 PT (PT長 牧野 光琢)

活動内容

- ・江戸前水産物 PR し体験 していただくイベントを各地で実施。
- ・最大のイベント、東京湾大感謝祭での情報発信活動を行う。
 今年は、PT メンバーによる イベントの 多くが中止を余儀なくされました。しかし PT メンバーの活動はオンラインでの情報発信・ブランド育成活動を実施しました。たとえば「江戸前漁師を元気にする会」さんは、Youtube 動画を活用し、横須賀海の市民会議さんは、オンラインで貝殻アートの作り方を発信（大感謝祭 Webpage で公開中）するなど、を行いました。
- ・オンラインで江戸前料理体験教室を開催（10月24日）
 （首都圏 を中心に 500 人に江戸前水産物を送付（ホンビノスガイ、タイ、スズキ、アジ、サバ、ボラなど）。その 簡単な食べ方・調理法とともに、東京湾生態系とのつながりを伝える動画を作成・配信。実際に各家庭で作って食べてもらう内容です。）
- ・千葉県漁連さんのリーダーシップにより「東京湾関係漁連・漁協連絡会議（仮）」の設置が提言されました。
- ・瀬戸内海の活動（漁連の連携、政策提言、法改正など）を参考に、漁業者による東京湾の環境保全活動のプラットフォームを構築し、東京 湾再生プロジェクトとの連携を視野にいれた活動を開始。
- ・千葉県＋神奈川県＋東京都の漁業者団体を組織化し、「豊かな海」を目指した研修会の実施や、都県・国との連携、他海域との情報共有などを行う。

<今後の方針>

- ・オンライン大感謝祭における江戸前水産物料理・普及動画の配信。また、この動画は PT の資産ともなり、今後も最大限に活用して、江戸前のブランド化を進めます。
- ・オンラインで江戸前料理体験教室で実施するアンケート の結果にもとづき、本フォーラムの目的である政策提案へもつなげていきます。
- ・千葉県漁連さんによる「東京湾関係漁連・漁協連絡会議（仮）」をはじめ、今後は各 PT メンバーの活動を連携・タイアップさせることで、相乗効果を発揮していくことが 大切だとおもう。
- ・環境 教育や食育等、人材育成はとても重要。この点については、他 PT との連携を見据えて、今後も検討していきます。

◇東京湾の窓PT(PT長 芝原 達也)

活動内容

- ・4月以降、新型コロナウイルス感染防止のためPTとしての対面による会合開催は中止。
- ・4月昨年に続き、令和2年度未来のみなとづくり助成(港・海辺活動/調査研究助成)に「東京湾沿岸学習施設の連携によるSNSを使った東京湾の魅力発信」を申請しています。
- ・6月上記の助成申請の採用が決定になりました。
- ・8月zoomによるオンライン会議を開催し、助成内容の進め方をPTメンバーで検討。また、コロナ禍での東京湾の窓施設での施設の運営状況について情報交換を行いました。試験用のFacebookグループページを発足し、現在は、一般公開して運用中です。
- ・東京湾大感謝祭に動画での出展参加を決定し発表しました。

7. 東京湾再生官民連携フォーラム 共催、後援等の実施

(1) 東京湾の窓PTスタンプラリーの代替として、Facebook「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」

主催：東京湾の窓プロジェクトチーム

(2) DEXTE-K(ディクテック)主催(西なぎさ発：東京里海エイド)への協力

定期的を実施している葛西・西なぎさでの漂着ごみ等の清掃活動に参加、協力を図りました。

期間：令和2年3月21日(土)～令和2年11月30日(月)の実施(一部大雨、コロナウイルス対応により中止)。

8. 東京湾の日・10月1日PR活動

○東京湾大感謝祭と歩調を合わせて、みんなが東京湾を意識してもらう日「東京湾の日」10月1日を設けました。この日を起点にしてまた締めくくりに日として、1年間の活動の発表の場や連携活動してきた共通の日となるようPRしていきます。

活動内容

- ・東京湾周辺に住んでいる、生活活動されている方々に向け、東京湾には多様な活動があることを発見するそれぞれの生活者、組織・団体のための東京湾クリエイティブDAYとして、年に一度東京湾に親しんでいただくための日です。東京湾の未来を描く活動検討を行います。
- ・未来に向けてのグローバルな課題の海ゴミ、プラゴミ対策の活動として、足元からの展開である「クリーンアップ東京湾海ごみ、プラゴミ・ストップ活動」を進めます。
- ・東京湾の自然資源の豊さと3000万人の東京湾周辺住民とともに首都圏の海・東京湾海の恵みに感謝し、ひとり一人が東京湾に親しむ行動の日です。

東京湾の日 ポスター



○みんなの東京湾・みんなで再生 東京湾の日・10月1日 PR用 動画

フォーラム活動、プロジェクト活動の一部紹介と共に、「東京湾の日・10月1日」のPR実施に活用していきます。

スタート画像



動画の一コマ

9. 会員募集・広報活動

(1) 東京湾 News-Letter 配信

東京湾-News Letter は、会員への情報提供として実施しています。令和2年4月1日～令和3年3月31日 配信数：19件実施。

◇資料-1 会員メール配信 東京湾 News Letter

件数	配信日	内容
1	2020.6.15	指標活用 PT データ収集（市民活動等の取り組みデータ）のご協力をお願い 協力項目①東京湾および東京湾に流入する河川におけるゴミ回収活動 ②東京湾における水遊びや環境学習等のイベント ③水遊び空間における水難事故防止のための監視・パトロール活動回数
2	2020.7.14	我が国初となるブルーカーボンに関する技術研究組合発足のお知らせ 海洋植物によるブルーカーボンの定量的評価、技術開発及び資金メカニズムの導入等の試験研究を目的とした「ジヤンプルーエコノミー（JBE）技術研究組合」が、令和2年7月14日付けで認可されます。
3	2020.8.5	「グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン全国大会（GIJ2020）」 ミーティング企画とポスター発表の募集のお知らせ

4	2020.8.11	セブン-イレブン記念財団、 9月13日『Webセミナー コロナ禍 時代を生き抜くヒント同時開催～助成金合同セミナー～』の開催を発表
5	2020.8.12	東京湾大感謝祭 2020 オンライン開催のご案内 横浜・赤レンガ倉庫で例年開催している東京湾大感謝祭は、本年2020年はオンラインの開催です。新型コロナウイルス等を勘案し、さまざまな工夫によりウェブを利用したイベント開催を実施いたします。 会期・会場：オンライン会場 開催会期：2020年10月1日（木）～25日（日）
6	2020.9.19	第15回東京大学の海研究「海洋プラスチック研究のゆくえ」 （2020/10/15・オンライン開催）のご案内 ・開催日時：2020年10月15日（木） 13:00～16:50 ・開催方法：オンライン ・参加費：無料
7	2020.9.22	10月1日よりスタート「オンライン東京湾大感謝祭 2020」を開催 東京湾大感謝祭は、産・学・官や住民が一体となり、世界に誇る東京湾の海を美しく再生するためのさまざまな活動や製品・サービスが一堂に会するお祭りです。今年はオンラインの開催です。ライブ配信やリアルな連携イベントを含めてコロナ禍の中で、東京湾大感謝祭実行委員会が工夫を重ねた開催です。
8	2020.10.1	オンライン東京湾大感謝祭 2020 サイトオープン、本日10月1日は東京湾の日です。東京湾で新しい活動を展開しているこのフォーラムは、多様な意見による積極的な交流をはかり、官民連携を図ることに尽力してきました。コロナ禍による生活環境の変化の中で今後、会員のみならずと共に取り組んでいきたい活動に、10月1日を「東京湾の日」として定め東京湾を貴重な自然資源として東京湾周辺、流域住民の生活意識の中で育むことができると考えています。オリンピック・パラリンピック後を見据えた「新しい東京湾」を創出していきます。
9	2020.10.5	東京湾再生官民連携フォーラム 令和2年度年度通常総会のご案内 令和2年度年度通常総会は、10月17日（土）午前10:00より、Zoom利用でのリモートによる開催です。 1.総会参加お申込み 2.ご出欠の有無 3.欠席の場合の委任状（10/14㊦）
10	2020.10.5	オンライン東京湾大感謝祭 2020 ライブ配信 10/17-18 に注目 例年、横浜赤レンガ倉庫で開催する東京湾大感謝祭は、コロナ対応のためオンラインでの開催です。今年度は10月1日10時より下記サイトにてオープンしました。 オープンサイト https://tbsaisei.com/fes/ 横浜大さん橋ホールからのライブ配信が決定しています。 オープニングトーク ようこそオンライン東京湾大感謝祭 2020～地球温暖化対策クールチョイス・トークショー「WONDER ACTION CAFÉ」～司会：榎太一さん日本テレビアナウンサー・東京湾再生アンバサダー、スペシャルゲスト・養老孟司先生登場！が登場します。

11	2020.10.8	<p>東京湾大感謝祭 2020 ライブ配信・申込無料！トークショー 「WONDER ACTION CAFE」のご案内！&バナーリンクのお願い オンライン東京湾大感謝祭 2020 が 10 月 1 日より下記 URL で公開されています。 https://tokyobayfes.jp/ ライブ配信のご案内</p> <p>10 月 17 日（土）、18 日（日）はトークショーのライブ配信があります。 司会は、柗太一さん（日テレアナウンサー・東京湾再生アンバサダー） 藤森涼子さん（日テレ NEWS24 気象キャスター、地球温暖化防止コミュニケーター） サプライズゲストは、養老孟司さん プレゼンターに、高田 昌行さん（国交省 港湾局長）千葉 早苗さん（JAMSTEC）女子高生プロジェクト（Blue Earth Project）ほかといった皆さんをお迎えし、「海にいいこと、やさしいこと、考えよう！」 をテーマに様々な話題をお話しいたします。チャットによる視聴者参加も可能な 参加型トークショーです！※チャットには Youtube アカウントでのログインが 必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会期：2020 年 10 月 17 日（土）、18 日（日） 両日 14 時配信開始。 ・会場：オンライン会場 ・申込：無料 <p>プログラムの詳細・お申込は下記 URL よりご覧ください。 https://tokyobayfes.jp/cool-choice-talk-show/ 東京湾ダー（WONDER）な 2 日間のライブ配信トークショー。</p>
12	2020.10.27	<p>「東京湾の水環境に関するアンケートへのお願い」一般財団法人 みなと総合研究 財団よりアンケートのお願いです。フォーラム活動、会員みなさまの活動とも関係する アンケートですので、是非、ご回答のご協力をお願い申し上げます。</p> <p><アンケート趣旨></p> <p>当財団では国土交通省関東地方整備局より委託を受け、東京湾水環境再生計画に係る 進捗状況の検討を行うこととなりました。本アンケートは、その一環として実施する ものです。本アンケートは、東京湾の再生に向けて再生計画の中間評価に活用 することを想定して、現在の東京湾の認識について広い関係者からの意見を収集する ものです。特に、行動計画・再生計画で示されている具体の行動目標の達成状況や、 その行動を起こすための体制・仕組みに対しての情報の集約を目指しています。</p>
14	2020.11.3	<p>アマモ交流会 2020 in GIJ（グリーンインフラ・ジャパン）のご案内 アマモ交流会 2020 が GIJ 内で開催されます。本交流会は、 11 月 7 日土 16:00～17:30 11 月 8 日日 10:00～11:30、14:00～15:30 の日程で、Zoom ウェビナーによるオンライン開催です。 参加は、事前登録（無料）制です。</p> <p>■プログラム内容（添付資料参照ください）</p> <p>11/7（土） 16:00-17:30 プレセッション：「海の新たなちからブルーカーボン 多様な価値をみんなで考える」 基調講演：ブルーエコノミー技術研究組合 桑江 朝比呂 理事長 （主催：みなと総合研究財団）</p> <p>11/8（日） 10:00-11:30 第 1 セッション：「グリーンインフラとして見た、海・アマモ場」 基調講演：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター仲岡 雅裕 教授 （主催：海辺つくり研究会）</p> <p>11/8（日） 14:00-15:30</p>

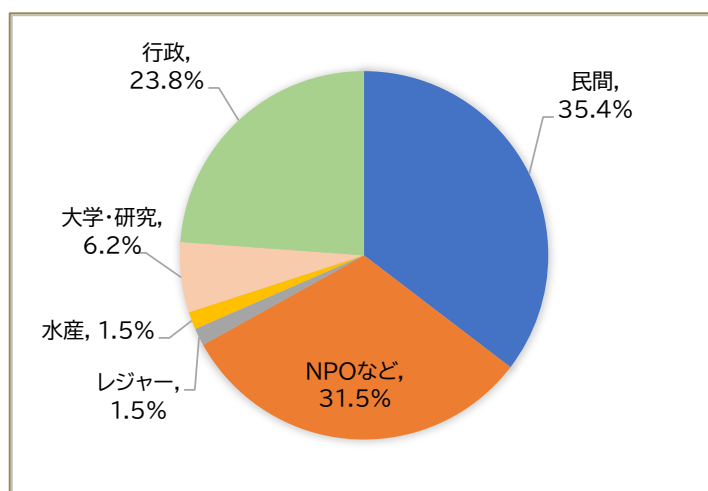
		第2セッション：「海の森づくりの取り組み」 基調講演：セブン-イレブン記念財団・松井 敬司 (主催：セブン-イレブン記念財団・海辺づくり研究会)
15	2020.11.6	海辺の自然再生・高校生サミット 2020 開催のご案内 NPO 法人海辺づくり研究会、NPO 法人共存の森ネットワーク主催により来る 11 月 15 日 (日) に、「海辺の自然再生・高校生サミット」をオンラインでの開催のご案内です。本サミットは、全国各地で海辺の自然再生に取り組む高校生が一同に集まり、活動発表や意見交換を行う場です。本年度は全国 12 校の高校生が発表を行います。 ・開催日時：11 月 15 日 (日) 午後 1 時～4 時 10 分 ・開催方法：ZOOM によるオンライン配信 ・参加費：無料・要事前登録
16	2021.1.20	新刊のご案内「日本の海洋保全政策」-開発・利用との調和をめざして- 江戸前ブランド育成 P T 長・牧野氏の著作物が刊行されました。 日本の海洋政策が一目でわかる幅広い知見が込められた入門書です。 ・書籍名：「日本の海洋保全政策」 ・発売日：2020 年 12 月 25 日 ・判型：A5 ページ数：196 頁 ・税込 2,860 円 (本体 2,600 円)
17	2021.2.15	CSR-NPO 未来交流会 2021 開催のご案内、参加募集 東京湾再生官民連携フォーラムは、Zoom を利用しての CSR-NPO 未来交流会 2021 開催いたします。参加無料。今回のプログラムは、「コロナ禍の NPO と企業の組織連携・生活スタイル様式の変化、行動変容から環境活動のヒントを探る」です。
18	2021.3.9	東京湾大感謝祭 2021 参加出展のご案内 東京湾大感謝祭実行委員会(実行委員長：田久保雅己)は、今年の東京湾大感謝祭は、昨年に引き続き、オンラインでの開催を中心に、出展案内を開始することになりました。
19	2021.3.9	竹芝みなとフェスタ開催&「竹芝公式 LINE」登録のご案内 竹芝 Marine-Gateway Minato 協議会は、竹芝の魅力が詰まったイベントを開催します。2020 年から変わり始めた竹芝が楽しめます。 日 時：2021 年 3 月 19 日 (金) 10:30~18:30 20 日 (土) 10:30~17:30 会場：東京ポートシティ竹芝 オフィスタワーウォータース竹芝 インフォメーションブース：東京ポートシティ竹芝 1F (ポートホール入り口近く) ウォータース竹芝プラザ内 (船チケット売り場横) 主 催：竹芝 Marine-Gateway Minato 協議会 共 催：竹芝地区まちづくり協議会 協 賛：東急不動産株式会社/鹿島建設株式会社

(2) 会員募集

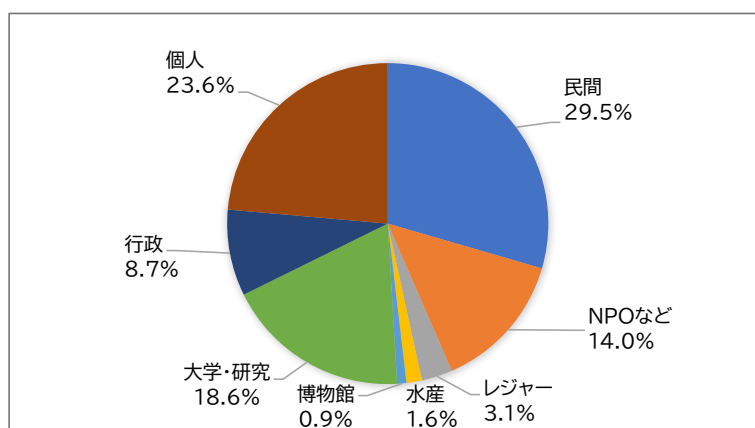
会員募集の実施

「東京湾再生官民連携フォーラム」(以下、フォーラムという)の趣旨に賛同し、会への参加を希望し、会員への登録申し込み者。東京湾の再生にあたっては、東京湾に関わる企業、研究者、水産関係者、レジャー関係者、NPO、市民、行政等の多様な関係者が、その英知を出し合い、共に連携協働し、楽しみながら環境再生の取組ます。賛同された会員の状況は下記のとおりです。微増ながら毎年着実に会員が増加しています。(団体・個人会員数：令和2年3月30日)

令和2年度 団体会員		
民間	46	35.4%
NPOなど	41	31.5%
レジャー	2	1.5%
水産	2	1.5%
大学・研究	8	6.2%
行政	31	23.8%
合計	130	100.0%



令和2年度 個人会員		
民間	95	29.5%
NPOなど	45	14.0%
レジャー	10	3.1%
水産	5	1.6%
博物館	3	0.9%
大学・研究	60	18.6%
行政	28	8.7%
個人	76	23.6%
合計	322	100.0%



(3) 東京湾/フォーラム活動の紹介・各地への情報発信

東京湾再生官民連携フォーラムの活動紹介や東京湾を題材にした情報提供活動の実施

(対象；講演会、セミナー・シンポジウム、マス媒体、書籍、雑誌など出演やインタビューを受ける、執筆活動による書籍の刊行など) および業界紙・誌等掲載

	日時・講演名称 取材メディア名 書籍名など	テーマ(内容)	主体者	場 所
1	令和2年 6月25日： 釣りジャーナリストの会	ハゼの棲み処調査（江戸前ハゼ復活プロジェクト）について	古川 恵太	日本釣振興会
2	6月29日・7月7日： 統合的海洋管理学	沿岸域の総合管理（含む里海論）Ⅰ・Ⅱ	古川 恵太	横浜国立大学 Online での実施
3	7月31日： 名古屋大学・沿岸海象力学	海域生態系の複雑なメカニズムとその管理	古川 恵太	名古屋大学 Online での実施
4	8月11日： 創価大学法学部「特殊講義Ⅲ」講座	東アジア海域環境をめぐる沿岸域協力と離島（東京湾再生官民連携フォーラムの紹介）	古川 恵太	創価大学法学部 海域環境研究グループ Online での実施
5	8月20日： 月刊江戸楽9月号	東京湾で釣りを楽しむ（江戸前ハゼ復活プロジェクトの紹介）	古川 恵太	<u>イー・アール・テイ株式会社</u>
6	8月25日： ルアマガ+	東京湾のマハゼはどこにいる？誰でもハゼ釣りで参加できる江戸前ハゼ復活プロジェクト「マハゼの棲み処調査」	古川 恵太	<u>株式会社内外出版社</u>
7	9月2日 中央環境審議会水環境部会総量削減専門委員会	干潟・藻場の保全・再生と連携の推進に向けて（PT 活動などの紹介）	古川 恵太	環境省 Online でのヒアリング

8	9月6日 YouTubeチャンネル 「東京湾再生ハゼ博士」	【360°】高島水際線公園愛護 会によるゴミ拾い活動と水質 調査		<u>Youtubeチャンネル</u>
9	9月9日 JICA研修「イラン国南 部沿岸域における環境保 全・管理計画策定プロジ ェクト（ホルムズガーン 州）」	海草藻場の再生技術（海の嘯声 プロジェクト、沿岸域の総合的 管理について説明）	古川 恵太	国際協力機構 Onlineでの実施
10	令和2年 9月28日： 日刊食料新聞	「東京湾の魚」など500人に あげちゃう	早武 忠利	
11	9月30日 YouTubeチャンネル 「東京湾再生ハゼ博士」	・【360度動画】 三番瀬ミニクリ 2020.8.2 ・【360度動画】浦安親子ハゼ 釣り教室 2020.8.8	モニタリングPT・ 海辺つくり研究会	エコメッセ千葉、 <u>Youtubeチャンネル</u>
12	9月30日 YouTubeチャンネル 「東京湾再生ハゼ博士」	ハゼと学ぶ 東京湾の環境	モニタリングPT・ 東京湾再生推進会議 モニタリング分科会	東京湾大感謝祭 <u>Youtubeチャンネル</u>
13	2020年 10月1日放送 Bay FM	・東京湾再生活動紹介 ・オンライン東京湾大感謝祭 2020 紹介	木村 尚	The BAY☆LINE
14	令和2年10月13日 ～Youtube動画配信	オンライン料理教室	早武忠利・阿高麦穂	Youtube
15	2020年 10月17日（土）～18 日（日）オンライン東京 湾大感謝祭 2020	海を起点にライフスタイルの 転換を考え、行動するきっか けを提供する場	東京湾大感謝祭 実行委員会	横浜大さん橋 ホール
16	2020年 10月17日（土）放送 FMヨコハマ	オンライン東京湾大感謝祭 2020の紹介	東京湾大感謝祭実行 委員会 事務局 吉野 生也	Travelin' Light

17	2020年 1月号(予定) (公社)日本港湾協会	新しいみなとの賑わい 「東京湾大感謝祭 初のオンライン開催」	東京湾大感謝祭 実行委員会事務局 吉野 生也	情報誌「港湾」
18	テレビ神奈川	猫のひたいほどワイド 10月15日放送	東京湾大感謝祭 掲載記事	
19	FMヨコハマ	Travelin' Light 10月17日放送	東京湾大感謝祭 掲載記事	
20	Bay FM	The BAY☆LINE 10月1日放送	東京湾大感謝祭 掲載記事	
21	ニッポン放送	市広報ラジオ「ようこそ横浜」	東京湾大感謝祭 掲載記事	
22	スポーツ報知	https://hochi.news/articles/20200715-OHT1T50232.html	東京湾大感謝祭 掲載記事	
23	日刊スポーツ		東京湾大感謝祭 掲載記事	
24	釣具新聞	https://tsurigu-np.jp/news/3288/	東京湾大感謝祭 掲載記事	
25	建設通信新聞	https://www.kensetsunews.com/archives/502573	東京湾大感謝祭 掲載記事	
26	釣り情報	https://mobile.tj-web.jp/ja/component/tags/tag/2020-10-02-03-52-41	東京湾大感謝祭 掲載記事	
27	「kazi」10月号	プレビュー記事 カラー1/2 ページ掲載	東京湾大感謝祭 掲載記事	
28	「ボート倶楽部」 10月号	プレビュー記事 カラー1/3 ページ掲載	東京湾大感謝祭 掲載記事	

29	みなと総研 2 2 号	一般財団法人 みなと総合研究財団	Report 東京湾大感謝祭 2020	
30	リビング横浜		東京湾大感謝祭 掲載記事	
31	FUNECO		東京湾大感謝祭 掲載記事	
32	海イコ!	https://uminiikou.com/event/000216/	東京湾大感謝祭 掲載記事	
33	SDGs UNITED	https://sdgsunited.jp/wp-sdgs/event/202010/849/	東京湾大感謝祭 掲載記事	
34	いこーよ	https://iko-yo.net/events/248097	東京湾大感謝祭 掲載記事	
35	環境展望台	https://tenbou.nies.go.jp/news/jnews/detail.php?i=30306/	東京湾大感謝祭 掲載記事	
36	ヒトシア	https://hitoshia.com/events/detail/001139/	東京湾大感謝祭 掲載記事	
37	ボーターズ NE	https://www.news-boaters.com/news/63953	東京湾大感謝祭 掲載記事	
38	JIIJ.COM	https://www.jiji.com/jc/article?k=000000049.000008191&g=prt	東京湾大感謝祭 掲載記事	
39	朝日新聞デジタル	https://www.asahi.com/and_M/pressrelease/pre_18183199/	東京湾大感謝祭 掲載記事	
40	産経ニュース	https://www.sankei.com/economy/news/201023/prl2010230188-n1.html	東京湾大感謝祭 掲載記事	
41	読売新聞オンライン	https://yab.yomiuri.co.jp/adv/feature/release/detail/00000049000008191.html	東京湾大感謝祭 掲載記事	

42	グルメプレス	https://gourmetpress.net/440768	東京湾大感謝祭 掲載記事	
43	港湾新聞	2020.10.27 東京湾再生官民 連携フォーラム第 8 回通常総 会をウェブで開催	フォーラム	
44	港湾新聞	オンライン東京湾大感謝祭で ライブ配信トークショーを開 催 10/17.18	東京湾大感謝祭 掲載記事	
45	10月17日 千葉市民の日講演会	東京湾における環境の変遷と 再生に向けた取り組み	古川 恵太	千葉市・稲毛 記念館
46	2020年 10月15日放送 テレビ神奈川	東京湾再生活動紹介	木村 尚	猫のひたいほど ワイド
47	10月24日 WATERS 竹芝 まちびらき Day	水辺セッション(東京湾再生の ための行動計画、プロジェクト を紹介)	古川 恵太	WATERS 竹芝 <u>Online での配信</u>
48	10月25日 YouTube チャンネル 「東京湾再生ハゼ博士」	東京湾ハゼ音頭 2020 (東京湾海辺の施設紹介)	海辺つくり研究会	<u>Youtube チャン ネル</u>
49	11月5日 参るぞ狼	江戸前ハゼ復活プロジェクト へ参るぞ！(東京湾再生のため の行動計画、プロジェクトを紹 介)	古川 恵太	釣りビジョン <u>VOD 配信</u>
50	11月21日 横浜トライアスロンイベ ントトークショー	きれいで豊かな海(東京湾再生 の方向性、横浜でのプロジェク ト紹介)	古川 恵太	山下公園 <u>Online での配信</u>
51	12月14日: 統合的海洋管理学 II	沿岸域管理の国際動向(東京湾 再生のための行動計画、プロジ ェクトを紹介)	古川 恵太	横浜国立大学 <u>Online での実施</u>
52	令和2年 12月25日 牧野光琢著「日本の海洋 保全政策」 東京大学出版会	第9章 沿岸域の総合的 管理 その具体事例としての東京湾 再生官民連携フォーラムの活 動	牧野 光琢	

53	12月29日 YouTubeチャンネル 「東京湾再生ハゼ博士」	夢ワカメワークショップ 2020 - 種系受け取り - - 種系設置 - - 第2回点検一、360度映像 - 第3回点検一、360度映像	海辺つくり研究会	<u>Youtubeチャンネル</u>
54	1月6日 YouTubeチャンネル 「東京湾再生ハゼ博士」	UMIプロ2020 ・マルハニチロ ・東京ガス	海辺つくり研究会	<u>Youtubeチャンネル</u>
55	令和3年 1月1日 水産タイムズ	ニューノーマルな普及活動とは	早武 忠利	

10.令和2年度決算書

東京湾再生官民連携フォーラム 令和2年度 決算

(令和2年3月31日現在)

【収入の部】

(単位:円)

科目	R2年度予算	R2年度決算(案)	備考
(1) 寄付金収入	100,000	32,500	(個人会員)
(2) 助成金収入	4,567,095	3,974,326	セブーンイレブン記念財団
(3) 雑収入	0	21	
普通利息	0	21	
その他	0	0	
(A) 単年度収入合計	4,667,095	4,006,847	
(B) 前年度繰越金	0	77,969	
(C) 収入合計 =(A)+(B)	4,667,095	4,084,816	

助成金会計【支出の部】

(単位:円)

助成費目	R2年度予算	R2年度決算(案)	備考
(1) 事務局経費	3,064,302	2,510,650	
1) 事務局 人件費	2,580,000	2,400,000	事務局員1人
2) 事務局 運営費	484,302	110,650	振込手数料、メール配信PR等 企画運営委員会会議室
(2) フォーラム事業費	1,502,793	1,463,676	交流会講演謝金、チラシ印刷・交流会案内、東京湾の日 交流会会場費(代替Zoom)、助成金戻し金額、 など
(D) 事務局経費+事業費(計)	4,567,095	3,974,326	
(E) 単年度収支差額 =(2)-(D)	0	0	

助成対象外会計【支出の部】

(F) 助成対象外計	0	70,259	パネル・資料郵送のためのタクシー代等 法定福利費(労働保険)、セブーンイレブン記念財団
(G) 支出総額 =(D)+(F)	4,567,095	4,044,585	
単年度収支差額(1)+(3)-(F)	0	-37,738	
収支差額(次年度繰越金)	100,000	40,231	



※ 東京湾再生官民連携フォーラム事業は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団からの
多大なご支援を受けて活動しています。

ご寄付への感謝

フォーラム活動に際し、団体・個人の方からご寄附を頂きました。
感謝、御礼申し上げます。

東京湾再生官民連携フォーラム 事務局

東京都港区虎ノ門 3-1-10 第2虎の門電気ビルディング 4F
(一般財団法人 みなと総合研究財団内)

電話 03-5408-8298



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」
が推奨する事業として認定を受けています